

2017年度(平成29年度)第15期事業報告

1. 概要

年度事業計画に基づき、主な事業として以下を実施した。

- (1) 定例土曜「漕ぐ会・ふれあいボート教室」
- (2) 平日「漕ぐ会」および「沈体験教室」
- (3) 二大行事(宮ヶ瀬湖遊漕会、紅葉レガッタ)
- (4) 当クラブ所有艇の整備

2. 各活動の詳細

2.1 定例活動(土曜漕ぐ会、平日漕ぐ会)

- ・土曜漕ぐ会・ふれあいボート教室は38回開催し、参加者は延べ779名(前年:970名)であった。ボート経験者だけでなく体験入門者の参加もあった。コックスシートのある艇には安全のため出来るだけコックスを付けるようにし、交代でコックスを担当して乗艇した。8月は渇水のため標高255m(満水時30m低下)4回(8/5~8/21)漕艇中止、この内2回は相模湖で行なう。他、降雪、降雨による中止も例年になく多かった。
- ・平日漕ぐ会は、月2回(原則火曜日)を基本として開催し、参加者は延べ110名(前年:93名)だった。
- ・夏季は、安全対応策として救助艇配備を条件として、シングルスカルの漕艇活動を実施。4月末~9月の4ヶ月間に、43名(前年:41名)が乗艇した。
- ・「沈体験教室」は8月1日、8月5日に実施計画したが渇水によりカヌー場閉鎖になり中止とした。

2.2 小中学生ボート教室

- ・当年度も特定の日を定めず、毎週土曜日に「ふれあいボート教室」と一体化して開催することとしたが、参加者はなかった。

2.3 二大行事

(1) 宮ヶ瀬湖遊漕会

- ・開催日:2017年7月17日(祝・海の日)
- ・参加者合計47名(前年:63名)、選手37名(6クルー)、役員21名。
- ・前回に引き続き先着順で募集し、使用艇6艇を貸切として受け付けた。
(使用艇:艇種 エイト 3艇、クオド 1艇、ダブル 2艇)
- ・艇庫前水域は利用せずに、本湖南面での「並べ」と漫漕を実施。
- ・漕艇後に、役員手作りの冷し汁粉とスイカを提供し喜ばれる。
- ・毎年参加人数減の傾向となっており、イベント内容、時期、集客方法、他イベントへの切り替えも検討の必要あり。

(2) 紅葉レガッタ

- ・開催日:2017年11月19日(日)
- ・レース参加選手・役員合計397名、応援120名、総計517名(前年:475名)
- ・一般参加内訳:エイト:19(前年:14)、クオド:14(前年:19)、ダブル10、ナックル11、計54クルー(前年:56クルー)
- ・当クラブ単独主催の大会であるがNPO神奈川県ボート協会からは従来通り審判団を派遣してもらった。
- ・前回より変更した参加全クルー2回漕ぎ方式を踏襲、午後のプログラム対応の負荷はなくなった。

参加クルー数を 56 クルーに制限、先着順受付けとしたが締切り後、2クルーが棄権。

- ・運営方式は午前・午後の2回レースを行い合計タイム(実タイム)にハンデを加味した修正タイムにより順位を決定する方式にて。年齢ハンディキャップは従来通りとした。
前年同様ダブルエントリー(DE)については、ダブルスカルと他艇種、同艇種内のDEは不可とした。
- ・安全対策:①従来通りのライン設置(レースコース中央ライン、コースと練習区域の区分けライン、練習ライン外側ライン)及び練習水位転回位置に大型三角ブイ設置。②ダブルスカル直進対策としてスタート正面に各レーンに2本柱を設置。③監視艇2艇配備、④コックスミーティングで注意事項を説明(プロジェクター活用の大画面での図解入り説明)、⑤救護係に医師待機、⑥傷害・賠償責任保険の付保。
- ・午前レース、午後前半レースの録画放映を艇庫内で実施し、参加者に好評であった。
- ・トン汁提供のため艇庫外で火気使用、財団施設課よりテントを借用、設置許可を清川村より取得した。
- ・大学支援校:補助役員として、四大学(東海大、防大、共立女子大、北里大)の協力を得た。大会前日、宿泊施設「愛川ふれあいの村」で、補助役員担当業務について事前打ち合わせをし、学生間の交流会も開いた。
- ・清川村の青龍太鼓の迫力ある演奏を昼休みに行ない第15回の節目の開催を盛り上げた。

2.4 所有艇の整備

定期点検・整備

- ・大会実施の基盤となる艇・オールの整備を強化するために、毎月1回定期的に整備日を設定したが毎回の漕ぐ会でも整備を実施し、劣化したシューズなどの部品も交換した。夏の渇水期や台風で艇整備が出来ない日が多かったが、整備が進んでいることもありレース準備には支障がなかった。

2.5 補助事務所の移設

データ・書類の保管、事務作業、小会議、物品保管等を目的として昨年賃借した補助事務所の2年間契約が12月で切れるに伴い、貸し主より現住所の一角の別棟一室に賃借変更した。格納庫として使用していく。

2.6 団体クルー参加・合宿利用

- ・宮ヶ瀬湖の良好な漕艇環境による漕艇他団体の利用希望に応じて、受け入れをした。
団塊号 日帰り、合宿、延べ103名
ペンタ(五大学OB他)日帰り、延べ39名(シングルスカル乗艇含む)
矢切ローイング 合宿、延べ32名
中央杉並高校 日帰り、延べ26名(シングルスカル乗艇含む)
東京外国語大学 OB 延べ16名
津久井グローリー 延べ5名
- ・初来湖クルーに対しては、当クラブ会員が立ち会い、艇庫内利用方法および湖面漕艇安全基準の説明をし、安全を期した。
- ・シングルスカル乗艇の参加者の技能レベルにより当NPO会員がモーターボートを出し安全を期した。

2.7 会議等(総会・理事会・運営委員会)の開催

- ・総会(3月12日)、理事会(2月19日、4月8日、7月23日、12月10日、計4回)
- ・運営委員会(1月28日、4月8日、5月13日、6月10日、9月9日、10月7日、12月2日、計7回)

2.8 艇庫内消防設備設置工事

神奈川県教育委員会の工事計画に対し要望書を提出し、主行事の紅葉レガッタ開催、日常の漕ぐ会への影響がないよう働きかけた。工事は2018年12月～翌年3月までとなり、工事中の艇保の艇保管への対応も行ない、漕ぐ会休止は免れる見込み。

3. 広報活動

3.1 ホームページ

・行事の案内、広報に大切な役割を果たしている。行事毎に、撮影担当役員が撮影した写真を掲載し、参加者に喜ばれている。

3.2 会報「宮ヶ瀬湖から 風のたより」

・年2回発行(3月、9月)して、会員および後援・協賛団体に配布している。さらに鶴見川、相模湖の各漕艇場に配布して、宮ヶ瀬湖への関心を喚起している。

3.3 その他

・3月11日財団主催「宮ヶ瀬湖周辺活動団体等交流会」で、弓場・百瀬理事、川上・武藤・正木運営委員が参加し他団体との意見交換を行った。

・日本ボート協会「月刊ローイング」、清川村広報誌「きよかわ通信」に行事毎に寄稿し、掲載された。

4. 安全対策・環境保全活動

4.1 流木除去・湖面清掃

・多目的ダム湖であるため、本年は季節により水位がおおよそ30m変化したが、上昇時の流木発生を防止できず、大会前には流木除去、清掃活動を実施して安全を期した。

4.2 シングルスカル安全対応

・初心者のシングルスカル漕艇時には、救助艇(モーターボート)を配置することを条件とした。救命胴衣着用も義務付けている。

4.3 安全講習会

・5月27日の土曜漕ぐ会の後、安全講習会を行ない、事故例を基に対応を検討した。

5. その他の活動

5.1 漕艇場めぐり

7月8日(土)、9日(日)両日に亘り、過去2回実績のある奥只見湖での漕艇を実施し、17名が参加した。宿泊は奥只見山荘、行き帰りは中型サロンバスを使用した。

5.2 愛川高校ボート部支援

愛川高校の支援要請書に基づき漕艇指導を行なった。部員は1名であったが7/30の横浜市民ボートレースには当BCメンバーとクオドルプルで出場した。年間を通じて乗艇指導を行なった。

5.3 部内レガッタ・ポットラック

4月23日開催。18名参加。艇庫前水域を利用して、クオドルプルの並べレースを実施。参加メンバーを4チームに分け、各チーム総当たりで2艇レースを6回実施。漕艇後の持ち寄り料理(ポットラック)での昼食会も例年同様好評だった。

5.4 レイクスポーツフェスティバル in みやがせへの協力

7月27日(木)～8月1日に宮ヶ瀬湖の魅力を広くPRしスポーツ振興の推進を目的とし、財団主催で各種団体が参加し開催、7月27日(木)クオド試乗会に初心者1組が参加。BCメンバーが対応。

5.5 対外レース参加

戸田国際マスターズ、横浜市民体育大会、横浜市民ボートレース、多摩川レガッタ、横浜ボートマラソンに参加。また、戸田国際マスターズ、全日本マスターズには多くのメンバーが連合クルー、他団体ク

ルーに参加して活躍した。

5.6 船台の更新

浮力が低下していた船台(浮棧橋)が新船台に改修され3月25日に財団主催の安全祈願が行なわれ立花会長、百瀬副会長が参列した。船台先端両端のビットの突出等の安全上の問題もあり改善、対処を要望しているが実現には至っていない。利用には事故の無いよう注意が必要。

5.7 NPO基盤の強化

- ・会員募集の呼びかけを行い、新たに3名が入会した。
- ・会員に対する会費納入の依頼に併せて金額自由の寄付金をお願いしたところ57名の会員から328,000円の寄付金が寄せられた。ご協力に深甚の謝意を表します。

以上

NPO 宮ヶ瀬湖ボートクラブ